

# 朝町木山遺跡・山田棒ノ尾遺跡・山田井ノ上遺跡 の窯資料

太田 智

## 1. はじめに

宗像地域ではこれまで40基を超える須恵器窯が発掘され、未調査を含む窯の総数は100基を超えるとされる。九州でも有数の規模を誇り、「宗像窯跡群」と総称されることが多い。

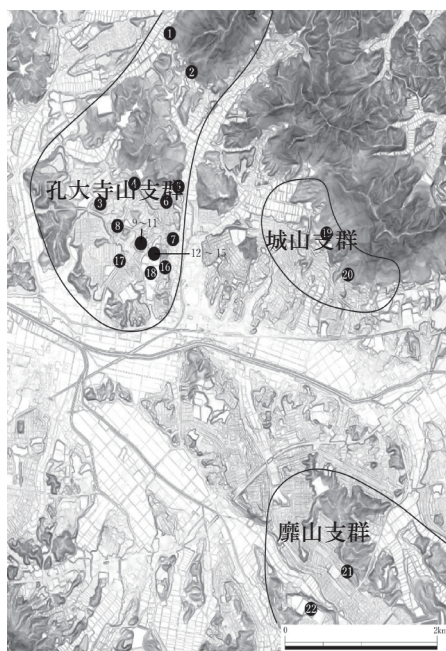
しかし、公表されていない資料が多く、特に7世紀から8世紀の資料が少ないため、窯跡群の位置づけや編年研究に支障をきたしている。こうした課題には表採資料や確認調査で得られたものを地道に資料化するしかない。

以上を踏まえて、本稿ではこれまで公表されていなかった須恵器窯の資料を紹介する第1弾として、朝町木山遺跡、山田棒ノ尾遺跡、山田井ノ上遺跡の紹介と、若干の検討を行う。

## 2. 宗像窯跡群の概要（図1・表1）

宗像窯跡群は、宗像市の中央部、孔大寺山・金山・城山・靡山から派生する丘陵上に所在し、立地から孔大寺山支群、城山支群、靡山支群に分けられる。

宗像市北部の孔大寺山から南西へ八つ手状に派生する丘陵部に分布する孔大寺山支群には、南部に宗像窯跡群最古の稲元日焼原(17)(ⅡB～ⅢA期)が所在し、稲元黒巡(3)(ⅢB期～Ⅳ期)がこれに続く。このほか、未報告だが須恵須賀浦(6)(ⅢB期～Ⅳ期)、須恵河原(7)、稲元宮ノ裏A(12)(ⅢB～ⅣA期?)、須恵的野(16)が調査された。おおむね5世紀末から7世紀前半の窯跡が集中する。また、稲元日焼原A～C(9～11)や稲元宮ノ裏A～D(12～15)でもⅢB期からⅣ期にかけての資料が出土・採集されているが、様相が不明で



- 1: 山田井ノ上遺跡 2: 山田棒ノ尾遺跡  
3: 稲元黒巡遺跡 4: 河東大浦遺跡 5: 須恵平原遺跡 6: 須恵須賀浦遺跡 7: 須恵河原遺跡 8: 稲元黒巡B遺跡 9～11: 稲元日焼原A～C遺跡 12～15: 稲元宮ノ裏A～D遺跡 16: 須恵的野遺跡 17: 稲元日焼原遺跡 18: 稲元須恵裏遺跡 19: 三郎丸堂ノ上C遺跡 20: 陵厳寺寺ノ前遺跡 21: 朝町木山遺跡 22: 浦谷古墳群

図1 宗像窯跡群の窯跡分布図  
(国土地理院地図を基に筆者作成)

ある。

これに対して北側の丘陵では本稿で紹介する山田棒ノ尾(2)・山田井ノ上(1)が所在する。いずれも未発掘だが、以前から資料が表採されており、前者では2023年1月22日に小規模に崩れた崖の法面から灰原が露出しているのを確認した。7～8世紀と指摘されている(花田1990)。以上から、支群の南側が古く、北側が新しいようである。

孔大寺山の南東に隣接する城山から南へ派生する丘陵上に所在する城山支群は、今のところ三郎丸堂ノ上C(19)の調査が唯一である。IV期の須恵器窯が調査されたが、遺跡から100m南西の尾降神社周辺では須恵器が散布して、須恵器窯の存在も想定されるという(波多野1975)。採集地点の詳細が不明な大田ヶ原窯跡(花田1990、IVB期?)もこの周辺だろう。陵厳寺寺ノ前遺跡(20)は寺の納骨堂の修築の際に破壊され、様相不明である。

市南部の靡山支群では、本稿で紹介する朝町木山遺跡(21)でV期を中心とする窯が4基確認され、概要が報告された(宗像市2002)。遺物は本稿で紹介する。このほか浦谷(22)でも1基が調査されているものの、出土遺物がなく時期が不明である。

表1 宗像窯跡群地点別一覧(筆者作成)

| 番号 | 支群   | 名称      | 基数 | 時期  |  |     |  |     |  |     |  |     |  | 備考        | 文献                 |    |
|----|------|---------|----|-----|--|-----|--|-----|--|-----|--|-----|--|-----------|--------------------|----|
|    |      |         |    | 5世紀 |  | 6世紀 |  | 7世紀 |  | 8世紀 |  | 9世紀 |  |           |                    |    |
| 1  | 孔大寺山 | 山田井ノ上   |    |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  | 灰原確認、横山窯跡 | ⑩                  |    |
| 2  |      | 山田棒ノ尾   |    |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  | 灰原確認      | ⑩                  |    |
| 3  |      | 稲元黒巡    | 7+ |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |           | ⑩①⑦                |    |
| 4  |      | 河東大浦    |    |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |           | 土馬採集               | ⑩④ |
| 5  |      | 須恵平原    |    |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |           |                    | ⑩  |
| 6  |      | 須恵須賀浦   | 24 |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |           |                    | ⑩⑥ |
| 7  |      | 須恵河原    | 1  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |           | 1987年調査            | ⑩  |
| 8  |      | 稲元黒巡B   | 2  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |           | 1971年波多野調査         | ⑩① |
| 9  |      | 稲元日焼原A  |    |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |           | 稲元日焼原新池窯跡          | ⑩⑨ |
| 10 |      | 稲元日焼原B  |    |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |           | 稲元日焼原新池窯跡          | ⑩⑨ |
| 11 |      | 稲元日焼原C  |    |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |           | 稲元日焼原新池窯跡          | ⑩⑨ |
| 12 |      | 稲元宮ノ裏A  | 6  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |           | 1995部分調査 須恵宮ノ裏古池窯跡 | ⑩⑨ |
| 13 |      | 稲元宮ノ裏B  |    |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |           | 須恵宮ノ裏古池窯跡          | ⑩⑨ |
| 14 |      | 稲元宮ノ裏C  |    |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |           | 須恵宮ノ裏古池窯跡          | ⑩⑨ |
| 15 |      | 稲元宮ノ裏D  |    |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |           | 須恵宮ノ裏古池窯跡          | ⑩⑨ |
| 16 |      | 須恵の野    | 2  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |           | 1998年確認調査          | ⑩  |
| 17 |      | 稲元日焼原   | 4  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |           | 1982年調査            | ⑩② |
| 18 |      | 稲元須恵裏   |    |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |           | 未調査消滅              | ⑩⑤ |
| 19 | 城山   | 三郎丸堂ノ上C | 4  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  | 1998年調査   | ⑩⑥                 |    |
| 20 |      | 陵厳寺寺ノ前  |    |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |           | 消滅                 | ⑩① |
| 21 |      | 大田ヶ原    |    |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |           | 詳細不明               | ⑪  |
| 21 | 靡山   | 朝町木山    | 4  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  | 1999年確認調査 | ⑩⑧                 |    |
| 22 |      | 浦谷      | 1  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |           | 1981年調査            | ⑩③ |

※番号は図1と対応する。

①波多野皖三 1975『黒巡須恵窯址』『筑紫史論』第3輯 ②宗像市教育委員会 1989『稲元日焼原』第22集 ③宗像市教育委員会 1982『浦谷古墳群』第5集 ④田中幸夫 1935『筑前発見祝瓮馬の二例』『考古学雑誌』第25巻第7号 ⑤中川研治 1980『宗像郡宗像町河東字須恵周辺に所在する窯跡群について』『地域相研究』第8号 ⑥宗像市教育委員会 2001『三郎丸堂ノ上C』第50集 ⑦宗像市教育委員会 2002『稲元黒巡』第53集 ⑧宗像市教育委員会 2002『むなかたの文化財 平成10・11年度文化財調査概要』 ⑨花田勝広 2002『筑紫宗像の生産工房』『田辺昭三先生古稀記念論文集』 ⑩花田勝広 2005「第3節 遺跡の踏査とその遺物」『倭王権と古代の宗像』 ⑪宗像市教育委員会 2011『宗像市遺跡等分布地図』 ⑫花田勝広 1990『宗像・相原古墳群の検討』『地域相研究』第19号

### 3. 各遺跡出土資料の報告

#### (1) 朝町木山遺跡出土須恵器 (図2～5)

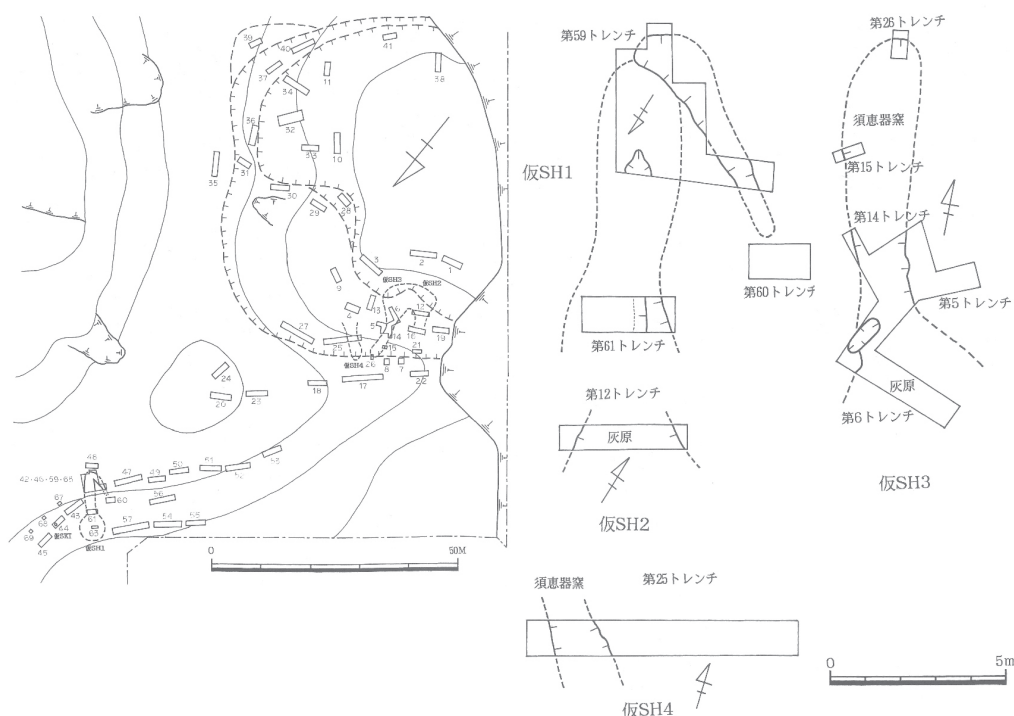


図2 朝町木山遺跡のトレンチ配置と窯 (宗像市 2002 から転載)

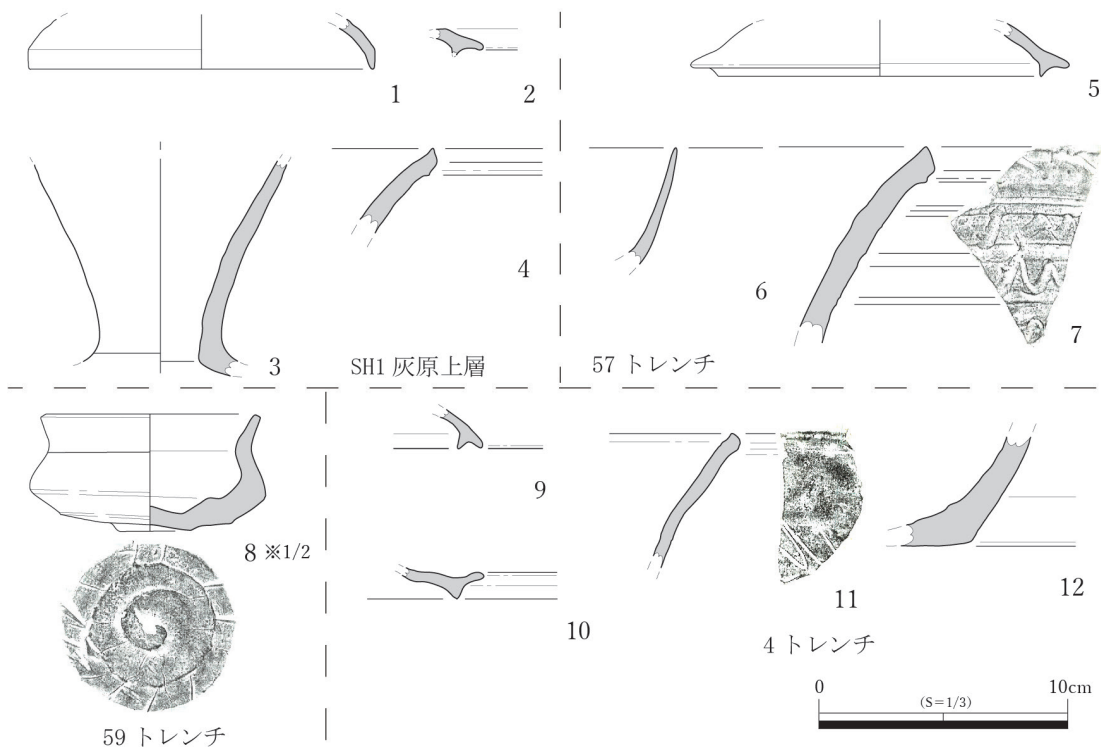


図3 朝町木山遺跡出土須恵器① (S=1/3、筆者実測・拓本・トレース)

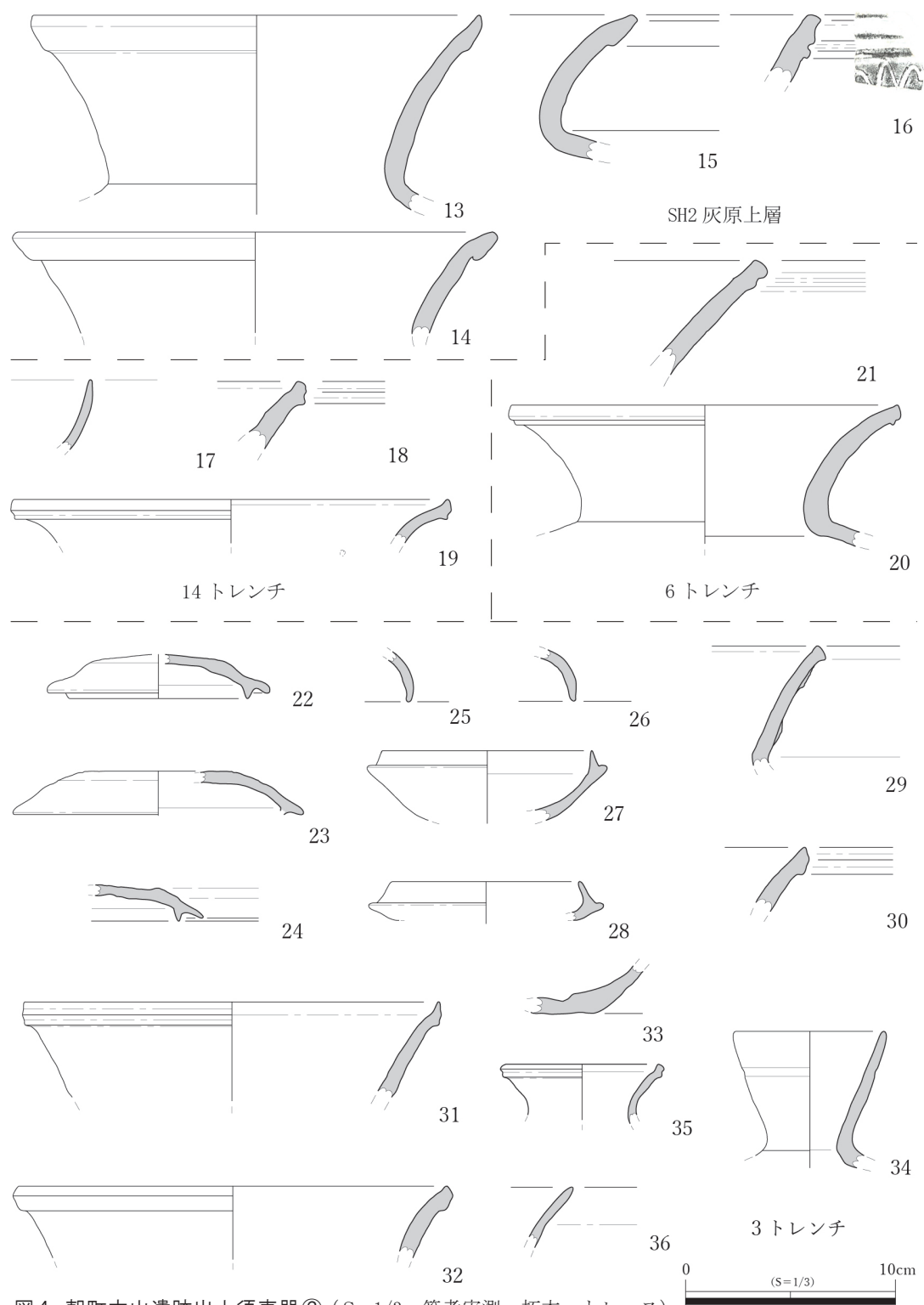


図4 朝町木山遺跡出土須恵器② (S=1/3、筆者実測・拓本・トレース)

靡山支群に属する朝町木山遺跡は、宗像市南部の靡山と新立山から北西側へ派生する丘陵部斜面に位置する。確認調査で合計87本のトレンチを設定したところ、北側斜面にSH1、

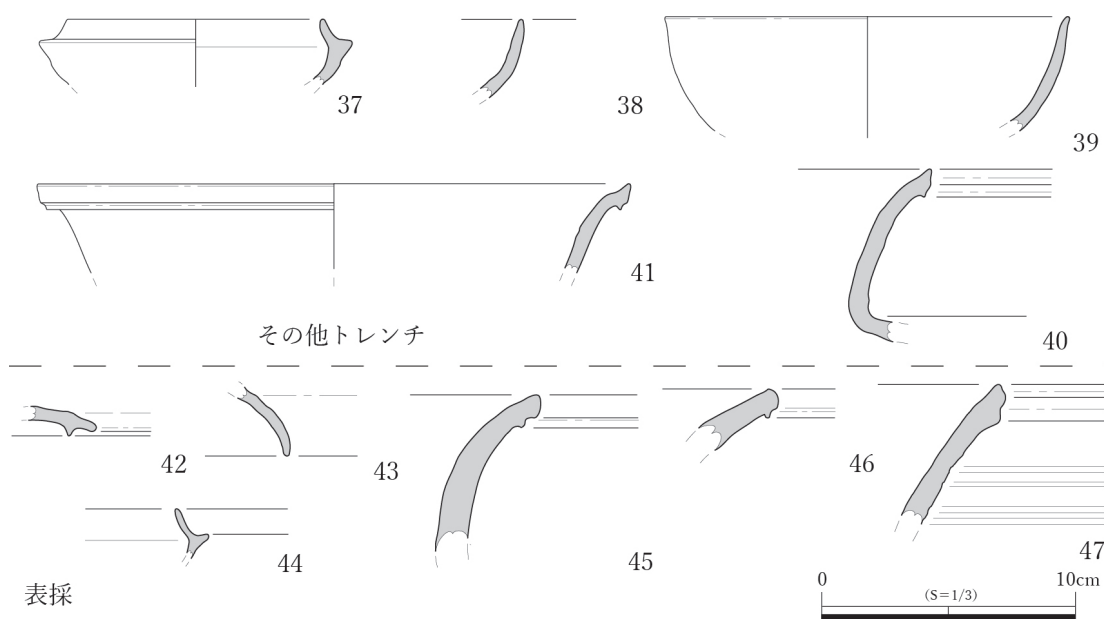


図5 朝町木山遺跡出土須恵器③ (S=1/3、筆者実測・拓本・トレース)

南西側斜面にSH2～SH4を確認した(図2)。紙幅の関係上、遺構の概要は宗像市2002に譲り、本稿では出土遺物のみ記述する。

SH1及び周辺出土遺物(図3-1～8)：検出トレンチ番号は42・46・59・65・61で、周辺の57トレンチでも遺物が出土した。1は蓋坏Hもしくは坏身Gだが、細片かつ焼き歪みが激しく判断できない。2と5は蓋坏Gで、6のような坏身Gも出土する。7の甕は、口縁端部直下に溝を巡らせ、頸部には沈線を施し間に単線波状文を少なくとも3段施す。8は口径5cm台を測る小型の壺で、これについては後述する。

SH2(図4-13～16)：12トレンチで灰原を検出した。出土遺物はいずれも甕で、13～15のような端部を台形状に肥大化させた単純な形態のほか、16のような明瞭な沈線を巡らせて単線波状文を巡らせる個体もあるなど、バリエーションに富む。

SH3(図4-17～21)：検出トレンチ番号は5・6・14。17のような坏身Gが出土したほか、18～20の甕はいずれも口縁端部直下に沈線を巡らせる。

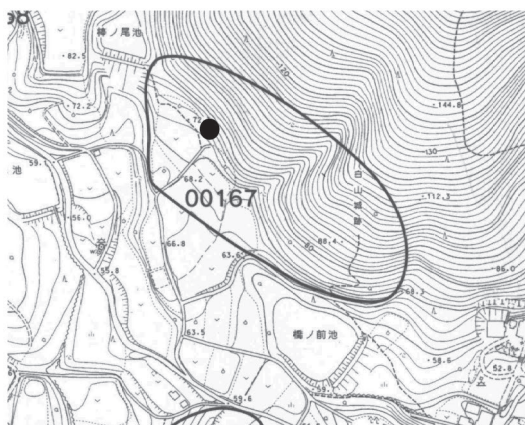
SH4周辺(図3-9～12)：SH4に帰属する可能性が高い4トレンチで須恵器が出土した。蓋坏G(9・10)のほか、単線波状文を施す壺(11)と、平瓶の底部(12)が出土した。

その他(図4-22～36、図5-37～47)：窯に伴うものではないが、窯の斜面下や隣接地のトレンチでも須恵器が出土した。このうち3トレンチは位置的にSH2・3・4から流出したものと思われる。22～24は蓋坏Gで、いずれも天井部は回転ヘラケズリを施す。25・26は蓋坏Hとしたが、坏身Gの可能性もある。27・28のような坏身Hも少量混じる。29～30は甕で、29以外は口縁部形態が三又状に近い。



## (2) 山田棒ノ尾遺跡 (図6-48～53)

孔大寺山支群に属する山田棒ノ窯跡は、宗像市孔大寺山から南西へのびる丘陵上に位置する。以前からその存在が指摘され、7世紀末～8世紀前半代と指摘されるが(花田1990)、資料は公表されていない。



灰原の位置



灰原の状況

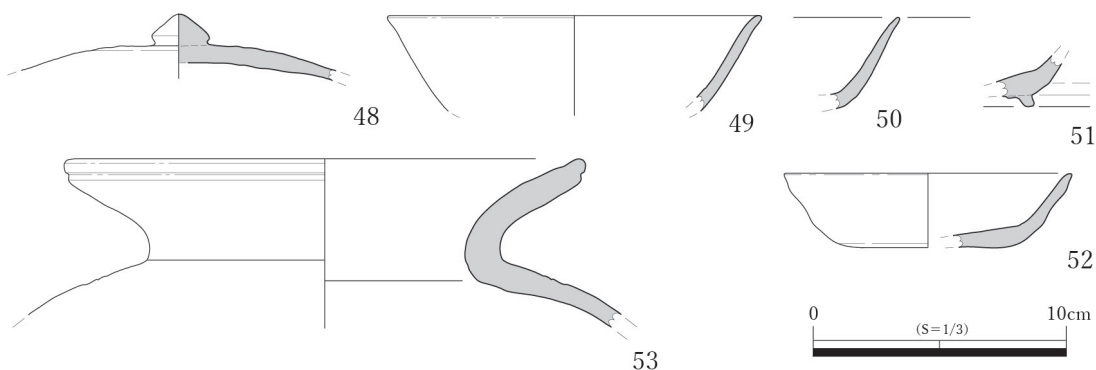


図6 山田棒ノ尾遺跡の表採地点と須恵器 (S=1/3、筆者実測・拓本・トレース)

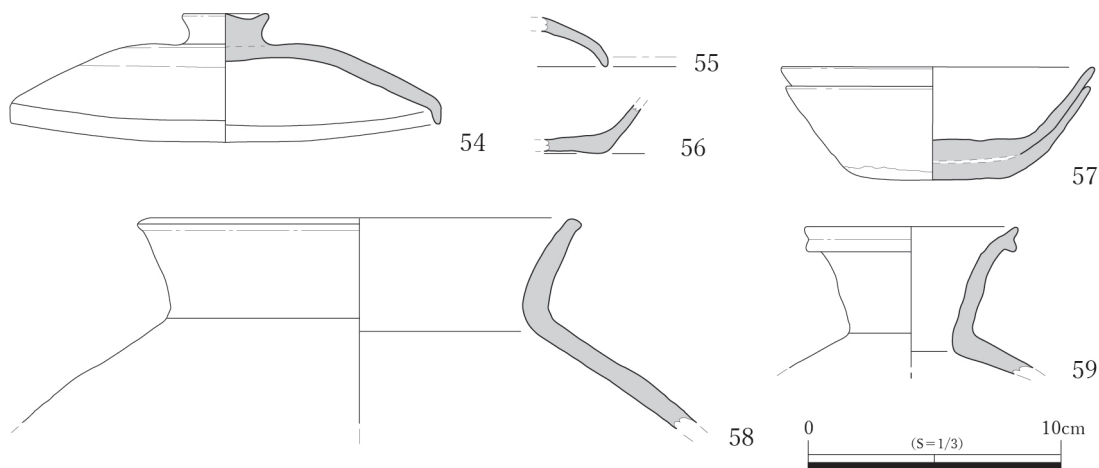


図7 山田井ノ上遺跡表採須恵器 (S=1/3、筆者実測・拓本・トレース)

1994年と2016年の宗像市分布地図作成時の調査では南側の農道や畑で遺物を多数表採しているほか、2022年1月22日に踏査したところ、南西側の斜面で窯体もしくは灰原が確認できた。

表採資料はいずれも破片だが、このうち実測可能な6点を図示した。48は蓋坏Bで、天井部は回転ヘラケズリを施し、この時期では珍しくつまみが宝珠形を呈する。

49・50・51は坏身BかAで、51の坏身Bは底部を回転ヘラケズリしたのち台形の高台を張り付ける。53の甕は全体的に厚手で、口縁端部に沈線を巡らせ、肩部以下は横位平行タタキを施す。

### (3) 山田井ノ上遺跡 (図7-54～59)

山田井ノ上遺跡は、山田棒ノ尾から北へ約300m進んだ丘陵斜面に位置し、1976年に表採されたほか、1994年の分布地図作成時にも窯壁と須恵器を表採している。

図7-54・55は蓋坏Bで、前者は天井部に回転ヘラケズリを施す。57の坏身Aは2個体が融着しており、窯詰状況をよく示す。58は甕で、頸部があまり開かず口縁部もシンプルなのが特徴で、肩部から体部にかけて横位平行タタキを施す。

## 4. いくつかの私見

### (1) 各窯の時期

朝町木山は調査の性格上、個別遺構の時期比定は難しい。ただし遺跡全体では坏H、坏Gが出土して、逆に坏Bは出土していない。前者は口縁端部に段を持たない。後者はほぼV期に収まるもので、宗像市2002で指摘されたとおりである。ただし前者はIVA期からV期まで存在するとされるので(木村2009、足達2022)、若干時期的にさかのぼる可能性も指摘しておく。

一方の山田棒ノ尾と山田井ノ上は、台形状の高台をもつ坏Bの存在と、天井部にヘラケズリを施す蓋の存在から、VIIAまたはVII B期の資料と考えられる。

### (2) 宗像窯跡群における7世紀代の甕の特徴

近年、筆者は九州の5～7世紀の甕の検討を進めているが(太田2020ほか)、これまで宗像地域では7世紀代以降の資料が不足していた。よって、ここでは見通し程度だが甕の口縁部形態及び施文の変化・地域性を整理しておく。

III B期以降の甕口縁部は、①口縁部直下に沈線を巡らせた三角形状A、②口縁端部を折り曲げて端部に弱い沈線を巡らせる垂耳状口縁、③端部を三又状になるように沈線を施した三又状口縁が主流である。V期ごろの朝町木山では、三角状Aと三又状口縁、三角状Aが退化した三角状Bが主体を占め、III B～IV期の資料群を踏襲しつつ簡略化している。最近、足達氏が宗像地域でも坏Hが7世紀第三四半期まで残存する可能性を指摘するが(足

達 2022)、甕も古墳時代的な形態がこのころまで残存しているといえる。一方で施文はⅢB～Ⅳ期の場合、宗像地域では波状文、刺突斜線文を多用する。ところがⅤ期の朝町木山の場合、波状文のみとなり、さらにこれまでの多線状から単線へと大きく変化する。牛頸窯跡群でもⅤ期ごろから波状文の割合が増加しており（岡田 2008）、変化の共通性がうかがえる。

### (3) 宗像地域内で出土する小形壺と沖ノ島有孔土器壺との関係（図8）

その他、SH1で出土した小形壺は周辺地域でもあまり例がなく、宗像地域内では散発的に出土する。その出現は早くてもⅢB期で、少なくともⅤ期の資料まで確認できる。

こうした資料の中で注目されるのが沖ノ島1号遺跡などで出土する有孔土器壺と小形壺の存在である。とくに前者は沖ノ島に関わる専用祭器と想定され、宗像地域内での生産が想定される。Ⅵ期の資料が不足するものの、両者は形態的には近似し、さらに沖ノ島1号遺跡で出土した孔のない小型壺とも通底する。6世紀末から7世紀ごろの古内殿古墳から有孔土器が出土している点、沖ノ島で有孔土器とよく共伴する沖ノ島型器台が在地の高坪形器台を祖形とする点を考えると（小田 2013）、有孔土器壺もⅢB期以降の在地の小形壺を祖形に成立した可能性は十分考えられる。Ⅵ期の資料の増加を待って再度検討したい。

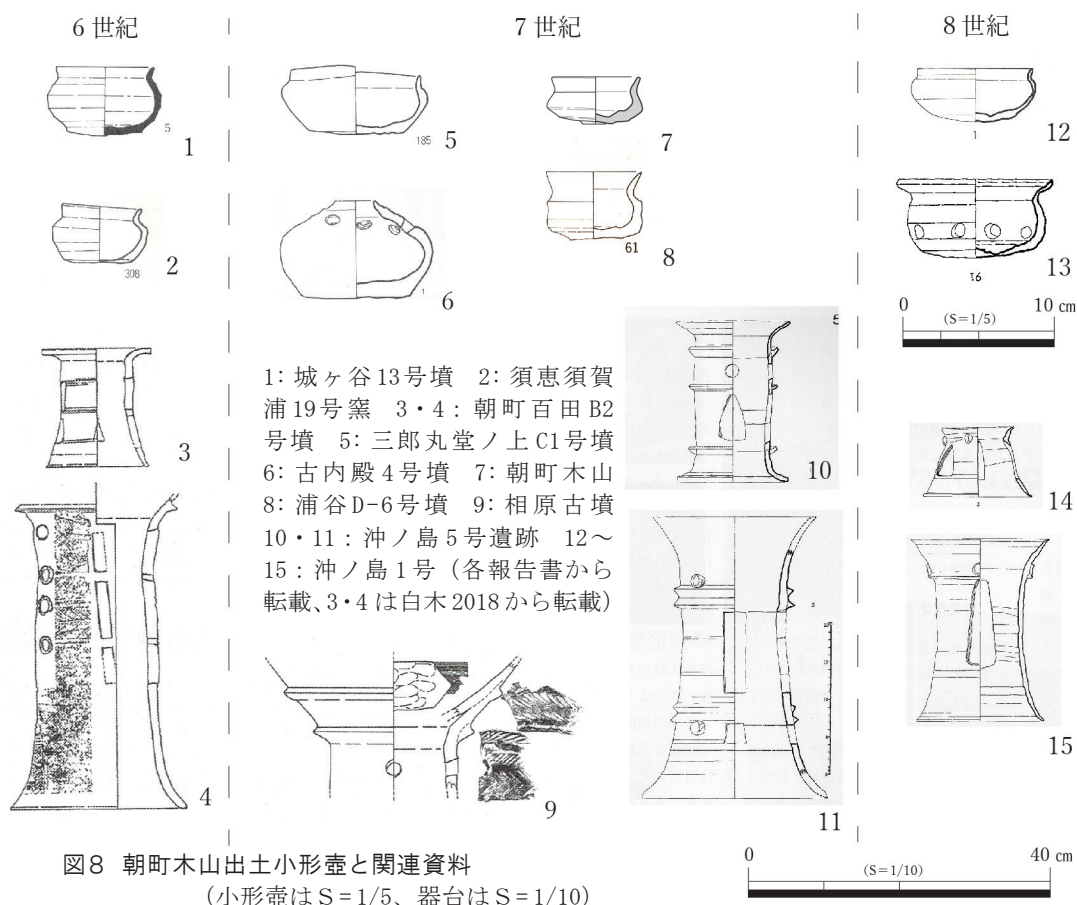


図8 朝町木山出土小形壺と関連資料  
(小形壺はS=1/5、器台はS=1/10)



## まとめ

本稿では、宗像窯跡群の中でも、公表されていなかった3カ所の資料を紹介した。宗像窯跡群ではこれまでⅤ～Ⅶ期の資料が不足していたが、本稿ではこの穴を埋める資料であるだけでなく、当地域の地域性や沖ノ島への土器供献を考えるうえでも重要な資料と考える。こうした資料の詳細な分析を今後の課題として、ひとまず稿を閉じたい。

## 参考文献 ※報告書その他については表1を参照

- 足達悠紀 2022「6・7世紀の須恵器編年考―北部九州を対象として―」『九州考古学』第97号 九州考古学会
- 太田智 2020「九州の須恵器甕からみた地域性と地域間交流」『福岡大学考古学論集3』武末純一先生退職記念事業会
- 岡田裕之 2008「3. 甕」『牛頸窯跡群 総括報告書Ⅰ』大野城市文化財調査報告書 第77集 大野城市教育委員会
- 小田富士雄 2013「①沖ノ島祭祀遺跡の再検討3」『「宗像・沖ノ島と関連遺産群」研究報告Ⅲ』「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議
- 木村龍生 2009「陶邑編年と九州の古墳時代須恵器について」『考古学研究』56-1 考古学研究会
- 白木英敏 2018「御嶽山と下高宮の祭祀遺跡」『世界のなかの沖ノ島』季刊考古学別冊27 雄山閣
- 花田勝広 1990「宗像・相原古墳群の再検討」『地域相研究』第19号
- 波多野皖三 1975『筑紫史論』第3巻

(おおたさとし 原始・古代部会)